

竹野

昇 議員

自治会から教育振興会に 助成金の是非

問 市内8つの小中学校が自治会連合会から学校教育支援金を受けている。教育無償化の時代、年金だけで暮らす世帯からいわば税金のように学校教育支援のお金を自治会が集めるのはおかしいのでは。改善すべき問題だ。学校の先生方や保護者が困らないよう、学校の教育予算の増額を。

答 教育振興会の活動は、地域の学校教育の充実を願うて地域の皆さまの善意として受け止めている。教育振興会による学校支援のあり方については、それぞれの教育振興会において検討いただけるものと考えている。

沖之川・蟹田川・ 小笠沢川流域治水対策

問 3流域は低い土地が分布し、安心して住める治水対策が必要。来年度予算において最重要重点事業の一つに組み入れてはどうか。

答 今までも重点施策として取り組んできたが、来年度以降も河川改修などのハード対策を着実に推進していきたい。



小笠沢川流域の排水路

本市の茶業振興

問 本年、気候の影響もあり、本県の荒茶生産量は過去最低水準であった。また、価格に関しても同様である。市内の今年の茶業状況をどのように考えるか。また、茶業従事者にヒアリングすべきと考えるがどうか。

答 JA遠州中央が扱った袋井管内の荒茶の数量は一番茶、二番茶ともに2割減、また、価格は一番茶の平均単価は前年度同様の水準を維持したが、二番茶は昨年よりも低い価格となった。生産者のヒアリング結果は、出荷先、取引先の確保が難しく、需要と供給のバランスが悪い、生葉の収穫量の調整が必要、県内の茶産地が一体として茶振興に取り組む必要性、飲料に限らない新たな商品開発に向けた異業種との交流、販売先が求めるGAP認証の取得が必要等の意見があり、今後機会を捉えてフィードバックしていきたい。

伊藤 謙一 議員

問 茶園が耕作放棄地化しないよう作物転換の検討をしたらどうか。本市の考えは。

答 お茶にかわる作物としてみかん、オリーブ、イチゴへの作物転換を行う生産者もいる。転換作物は販路の確保できる作物でなければならぬことから、JA遠州中央とも協力し、需要のある作物の情報提供や、作物転換のモデルケースの提示などに取り組んでいきたい。



笠原地区の茶畑